

Ⅲ 点検・評価の結果

【千葉市教育委員会による自己評価】

◎学校教育

学校教育分野については、平成 21 年から学校教育推進計画に基づき各種施策を進めています。この計画においては、90 に及ぶ達成指標を定め、毎年度、施策の進捗状況を、数値により市民の皆さんにお示ししています。これほど多くの達成指標を策定し、毎年度評価を行う自治体は全国でも珍しいものですが、市民の皆さんから教育行政への理解を頂くため、計画の評価を今後ともしっかりと行ってまいります。

学力、体力については、ここ数年の各種調査をみますと、良好な状況にあると言えます。これは、日頃の子どもの頑張りや、教職員の努力によることが大きいことはいうまでもありませんが、千葉市における学校に対する取組も、一定の効果を上げていていると考えています。

例えば、全学校への図書館指導員の配置や、朝読書による読書活動の充実、国語力の向上に効果を上げていますが、各教科等においても調査研究などの読書活動の充実を図り、読書の幅を広げることが今後一層大切になります。

また、理数科教育においては、少人数指導教員や理科支援員の配置は、理科・数学離れの対応として、大きな効果を上げています。さらに、算数・数学への児童生徒の興味・関心の向上を図るため、指導の重点化・指導方法の工夫・改善を行うことが今後重要と言えます。

体力についても、体育の授業の充実に加え、学校給食の市内小・中・特別支援学校への完全実施により、子どもたちが栄養のバランスのとれた昼食をとれていることが、良い結果に結びつく大きな要因となっていると考えています。

また、学校と地域との関わりについては、すべての市立小・中学校においてセーフティウォッチャーが登録されており、不審者対策に地域ぐるみで対応できる体制があります。さらに、全学校において学校評価を実施し、ホームページを開設する等、学校の情報を広く公開するようになっており、学校と地域、家庭が連携した取組の充実に努めてきました。

学校耐震化は、未だ 7 割強の学校で行われているに過ぎず、子どもたちの安全を確保するため、当初の予定を前倒しし、平成 26 年度までに耐震化を完了させる目標で進めています。

また、ネットいじめに代表される新たな教育課題や防災教育等、ニーズが高まっている課題に対しては、今後一層、教育委員会全体として取り組む必要があります。さらに、他市と同様、若い教員の比率が増えていることを踏まえ、教職員の資質の向上を図る機会の充実に努めるほか、教員が子どもたちと触れ合う時間を確保するため、教員の負担軽減にも努めていきたいと考えています。

◎生涯学習、文化財、スポーツ

生涯学習分野については、生涯学習や社会教育を振興させる上で重要な役割を担う生涯学習センターをはじめ、公民館、図書館、科学館等の専門的な機能を持つ多種多様な施設の充実に努めてきました。

各施設においては、それぞれの機能を生かし、学習の場の提供や現代的課題・市民ニーズ等に対応した多くの事業を実施しており、市民に活用されているものと認識しています。

学習活動を通して培われた学びの成果は、市民が主体となって展開される家庭教育の支援や放課後の子どもの居場所づくり等の事業において生かされており、地域の教育力の向上につながっています。

生涯学習の重要性が高まる中、今後も学習機会の提供や学習環境の整備に引き続き取り組むとともに、一人ひとりの市民の持つ知識や経験が地域づくりに生きる社会の実現を推進していきます。

文化財については、加曽利貝塚をはじめ、世界的にみても有数の貝塚密集地帯であるほか、旧石器時代からの遺跡が数多く所在しています。しかし、市民の歴史や文化財に愛着を感じる割合が低いという調査結果もあり、こうした状況を踏まえ、加曽利貝塚については、貝塚として初の特別史跡指定に向けた準備を進めています。こうした中で、千葉の歴史や文化財を小学校段階から子どもたちに教えるとともに、広く市民に文化財の価値を伝えていくという施策を進めていきます。

スポーツ分野については、千葉市は、千葉ロッテやジェフ千葉などのプロスポーツチームの本拠地であるほか、国際千葉駅伝のような国際大会が実施されており、市民がスポーツを観る環境が整備されていると言えます。さらには、スポーツ施設の充実や、校庭開放など、スポーツをする上での環境も備わっています。今後は、こうした環境を生かし、あらゆる年齢層の市民がスポーツに親しめるような施策を進めていきます。